市街地のみどりで観察

ここでは、大阪府内の代表的な市街地のみどりとして、大阪城公園、万博記念公園を紹介します。これらの場所は、まったくの自然ではありませんが、樹木は大きく育っています。また、交通が便利なこともあって、手軽に観察に行けるのが大きなメリットです。

Point1 大阪城公園で鳥を観る

大阪城公園は、大阪市内では最も大きなみどりのある場所です。

鳥たちのなかには、季節により渡りをするもの（渡り鳥とよびます）が多くいますが、遠く南の地域から日本に渡ってきて夏に繁殖する鳥（夏鳥とよびます）と冬を越すため北の地域から日本に渡ってくる鳥（冬鳥とよびます）に大きく分けられています。大阪城公園は、多くの渡り鳥が渡りの途中に一時的に休息をする場所として有名です。

春の渡りは４月下旬から５月上旬のゴールデンウィークの頃、秋の渡りは９月から10月にかけてです。長い距離を飛び続けてきた鳥たちは、疲れているのでしょう。街の中にありながら、みどり豊かな大阪城公園の景色は、旅の途中で休みたくなる最適な場所にみえるようです。渡りの時期には、普段は平地ではみることのできない高山にすむ鳥や珍しい種類の鳥が多くみられます。しかも、林の中は見通しがきくように管理されているおかげで、大変観察しやすいのもここの特徴です。

188. サンコウチョウ

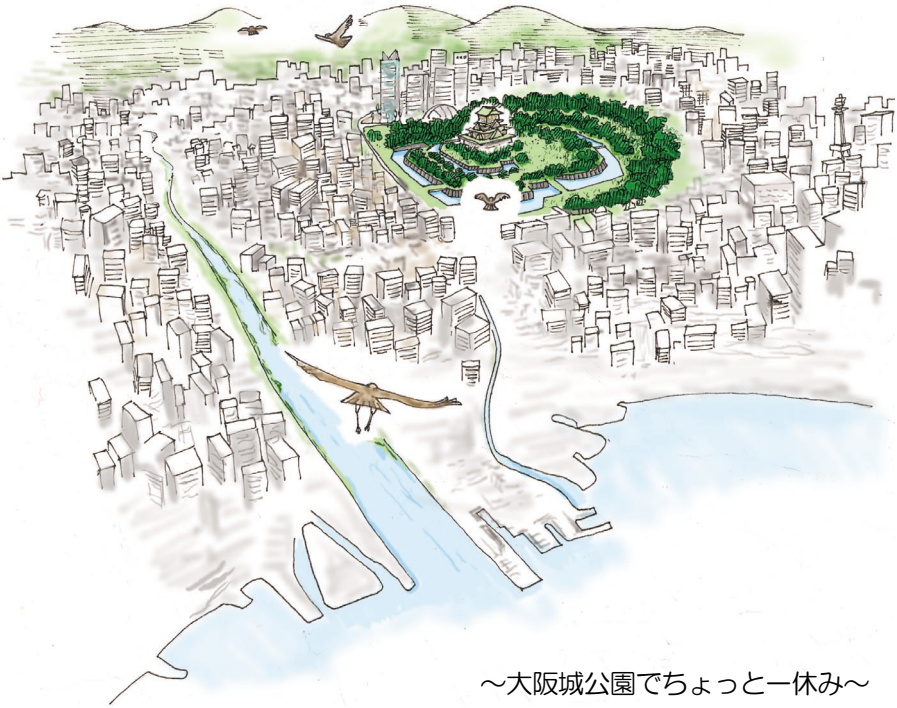
189. バードウォッチング

188. 北山 弘司　189. 元山 裕康

これまで、たくさんの渡り鳥が公園内で記録されています。オオルリやキビタキ、メボソムシクイ、コサメビタキ、サンコウチョウなどのほか、時にはコマドリ、コノハズクなどの深い山にいる鳥がみつかることもあります。

冬には、ここを越冬地として利用している鳥が観察できます。お堀にはコガモ、マガモ、ヒドリガモなどのカモ類、林ではオオタカやハイタカなどの猛禽類もみられるようになります。

大阪城公園には、鳥を観察に訪れる人（バードウォッチャーとよばれています）が多いので、鳥の名前をたずねたり、鳥にかんするいろいろな話を聞いてみてはどうでしょうか？ここで鳥たちの美しさやすばらしさにふれ、鳥に興味を覚えた人もたくさんいます。双眼鏡（倍率が７～８倍、口径が30～40㎜のものが適当です）を持って、ぜひ観察にでかけてみましょう。



～大阪城公園でちょっと一休み～

Point2 万博記念公園でセミのぬけがらを探す

吹田市にある万博記念公園には、エキスポランドや競技場など多くの施設があり訪れた人も多いと思いますが、今回は自然文化園に行って、林やその周辺の生きものをみてみましょう。

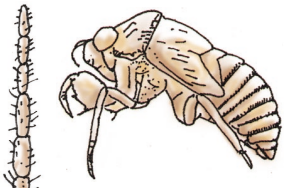
林にはクヌギやコナラ、クスノキ、タブノキ、ケヤキなどいろいろな木が植えられていますが、中にはかなり大きな木もみられます。林内が薄暗いほどの立派な林もあり、市街地の中にいることが信じられないくらいです。

ここでも大阪城公園と同じように、渡りの時期にはいろいろな種類の渡り鳥が一時的に休息に集まり、その観察を楽しむバードウォッチャーもたくさん訪れます。夏にはセミの声がにぎやかで、各所につくられた池や川、花壇などには多くのチョウやトンボなどもみることができ、動物たちもたくさんすんでいることがわかります。

この公園は、1970年に開催された万国博覧会の跡地につくられたもので、今みられる公園内の林や草地などのみどりは、そのあとでつくられた人工の環境なのです。ですから、じつはつくられてからまだ30年もたっていないことになるのです。木や草花は植栽されたものがほとんどですが、動物たちは連れてこられたのではなく、多くはこの30年の間に、どこからか入ってきて、ここにすみついたということになり、ちょっと驚いてしまいます。

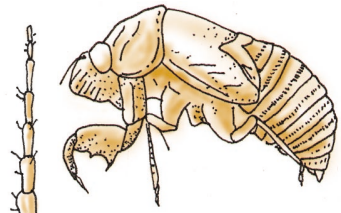
身近な場所なのでいろいろな観察ができますが、ここでは大阪市内の公園などで最近よく行われている、手軽な観察方法を紹介します。

～アブラゼミ～



中くらい
茶褐色
触覚の毛は多い

～クマゼミ～



大きい
黄褐色
触覚の毛は少ない

～ニイニイゼミ～

小さい
全体に泥をかぶる
体は丸っぽい

万博記念公園にもたくさんのセミがすんでいますが、どんな種類がどのくらいいるのでしょうか？一番多いのはクマゼミでしょうか？場所によるセミの好みがあるかもしれません。こんな疑問に答えるひとつの方法として「セミのぬけがら調査」があります。

この調査はだれにでも簡単にできること、みつけて採集することという楽しみがあります。しかも、採集しても自然への影響があまりないこと、セミの生態だけではなく環境の変化などもわかることなど、とても優れた観察方法です。

まず公園内で、環境や木の種類別にセミのぬけがらを集めて、その種類と数を記録します。環境別とは林が明るいとか暗い、木がまばらか、こみあっているか、林床の下草が多い少ないなど、自分で気がついた違いで区分して下さい。最初からはうまくいかないかもしれませんが、結果をみながら変えていけばいいのです。

大阪市内のある公園では、アブラゼミ、クマゼミ、ニイニイゼミ、ツクツクボウシ、ミンミンゼミの５種類のセミが確かめられました。アブラゼミのぬけがらが最も多く、次いでクマゼミでした。アブラゼミは落ち葉が多く下草のあるところ、クマゼミは下草のないところ、ツクツクボウシはさらに下草の多いところといった、好みの環境に違いがあることがわかりました。万博記念公園ではまた違った結果がでるかもしれません。これとは別に、毎年このような数の記録をとって、気温や天候などとの関係を調べた報告もあり、気候と生きものの関係を知るうえでも注目されています。観察の方法を工夫することで、生きものや環境のいろいろな姿がみえてくるのです。

～セミのぬけがらの見分け方～

～ツクツクボウシ～

小さい
薄茶色
体は細長い

触覚

～ミンミンゼミ～

中くらい
黄褐色
触覚の毛は少ない

ミンミンゼミのぬけがらは、大阪市内ではこれまでに１個しかみつかっていません。きみは、みつけることができるかな？